

奥美濃 野伏が岳 山スキー

日時：2021年1月30日

メンバー：青松

天気：雪時々曇り

行程 7:20 白山中居神社駐車場出発

9:00 牧場跡東端

9:40 ダイレクト尾根取り付き

12:20 野伏が岳

14:40 白山中居神社駐車場

当初、猿が山を予定していたが大雪警報で高速道路が飛騨清美以北で通行止め、現地に辿り着くことができず行先を野伏が岳に変更した。前回、先月に行った時は猛烈な藪に行く手を阻まれ敗退していた。先日、ヤマレコで野伏の報告がありその写真で藪が幾分埋まりスキーの滑降コースが窺えていた。今回は登頂できるのか？

中居神社駐車地からシール歩行で出発。道路には15センチ程度の積雪、周辺集落の積雪は前回より少し増えている印象。

除雪終了点は1メートルほどの壁になっておりスキーのままでは上がれない。少し戻って雪壁の崩れた所から強引に上がった。そこからラッセルが始まる。雪の状態は固いザラメ層の上にやや湿り気のある新雪が30~50センチ載っている。先日の昇温と雨の後の今回の降雪である。雪崩は気になる。前回のドカ降り後と比べるとラッセルはマシンで足首から脛程度である。

林道をショートカットしながら牧場跡東端にでる。雪は降り続き視界は悪い。天気が良ければここから野伏が見えるはずなのだが。前回はここから野伏を見た途端「今日は終わった、スキーは無理や！」と分かったが今回はまだわからない。ヤマレコの写真信じて進もう。尾根の取りつきまではほぼ水平移動だ。雪の状態は下と変わらず固いザラメの層の上に新雪が載っているがその新雪は50~80cm程度か。概ね脛以下のラッセルで進む。時々視界が良くなり野伏が見えるようになる。「ヨッシャー、藪埋つとるやんけー」テンションがあがる。

ダイレクト尾根への取りつきは急でラッセルは膝程度になるが、何より藪が覆われ好きな所を歩けるので断然楽である。ラッセルはしんどいが藪のストレスが無い分精神的に堪えない。尾根に乗り上げるとラッセルは再び脛程度となる。ホント登りやすい。前回藪地獄で引き返した地点に到達、今回はウェルカムな斜面へと変貌している。視界が良くなる時間が多くなる。風もほとんど感じない。天気は回復の兆しがあるようだ。ただ視界が良くなった時の上空の雲の流れは速い。ダイレクト尾根も地形によって差は大きい。固いザラメに新雪が50~80cm載った状態であるが標高が上がるのでより軽い新雪になっている。今回のラッセルは滑降のウハウハである。

主稜線に突き上げる直前から風で新雪が飛ばされ固いザラメ層が出ている部分と新

雪が溜まった部分のミックスの斜面となりラッセルからは解放される。新雪は深い所でも 15cm 程度。主稜線から山頂まで同様の斜面が続き程なく山頂到着、視界は相変わらず悪い。風は一時強く吹く程度。視界が良くなることを期待して格好の準備をする。

あまり良くなりそうもないので滑降開始、セミホワイトアウトで雪面の状態が分かりにくいので慎重に下る。ダイレクト尾根分岐まで来ると視界は良くなり滑りに支障はなくなる。

いよいよウハウハゾーン突入。一度スキーカットを試みる。かなり安定している印象。さぁレッツゴー！登りの苦勞が報われる。深すぎない深雪で板は良く走る。あの激藪が覆われ自由自在に板を走らせる。快感、いい感じ。急斜面では敢えて縦に突っ込みスプレーを巻き上げる。面白すぎて止まらない。あれ～もう終わりですか？尾根の取りつきに戻ってきた。久しぶりの面白さに登り返そうか迷ったが明日もあるのでこのまま降りることにする。

牧場跡の水平移動はダルい。シールを張り直す。あの面白さとのダルさのギャップは何なん？途中で補給して気分転換。その後林道をショートカットしながら適当に滑るが雪の状態は保たれており最後まで新雪滑降が楽しめる。朝、シール歩行できた道路に雪はなかった。